

編集後記「忘れられないミョウガの思い出」

暑い日が続きますね。

夏のこの時期、ソーメンや冷や奴の香辛菜として使用される

「**ミョウガ**」。僕はこの**ミョウガ**が大好きです。特に、酢味噌でいただくのが一番好きです。

でも子供の頃は、苦くてむしろ大嫌いでした。(〇_〇)

じいちゃん子だった僕は、**ミョウガ**が好物だった祖父からよく勧められていました。でも当時は何が美味しいんだかサッパリわからなくて逃げ回っていました。6月末に4年ぶりに「**水戸黄門**」の放送があったそうですが、幼い頃、**水戸黄門**を見ながら**ミョウガ**をアテに焼酎を呑んでいた祖父の姿を懐かしく思います。

「**水戸黄門**」のハイライトといえば、「印籠」を出して隠していた素姓をバラして、悪人どもを跪かせるシーン。悪人どもと格闘した後、格さんは息も切れることなく、すみやかに葵の紋の入った印籠を悪人の目の前に差し出し、「**控えおろう！ここにおわすは・・・**」とやるわけです。

印籠は文字通り印や朱肉を入れるもので、旅に必要と思われる常備薬も入れておくような、大切な「物入れ」だったそうです。大きさは小さめの携帯電話位でしょうか。でも何メートルも先の悪人どもから、「**葵の御紋**」が見えるなんて、昔の人は目が良かったのかしらん。(๑_๑)

それに格さんはそんな印籠をなんで乱闘の最中にスッと出せるのかも、ちと不思議です。

ま、悪人に印籠を差し出す時に、「**八兵衛、印籠いれた袋どこにしまったっけ？**」なんてことがあったら、サマになりませんけどネ。(๑_๑)

さて現代でも同じように携帯できる便利なもので、尚かつとても重要な「物入れ」があります。

大量の情報を記憶できる**USBメモリ**や**SDカード**等の記憶メディアです。携帯電話やスマホもパソコンとつながれば同じこと。片手で包める大きさで、一昔前のスーパーコンピュータ並みの記憶容量があります。便利な反面、職場の大切な機密情報や個人情報を簡単に持ち出すことが可能な、危険な一面もあります。これから、夏休みを取る従業員さんも多いかと思いますが、例えば仕事に前向きな従業員さんであっても、休暇中に仕事を持ち帰らせることがあってはなりません。

悪意が無くとも、その携帯性は、「紛失しやすい」ということにつながります。情報の流出は、たとえ過失であれ、万が一のことがあれば、どんなに頑張っても回収しようとしたところで取り返しがつきません。

さる6月27日、ベネッセホールディングスは情報流出発覚後初の株主総会を開き、原田会長兼社長が改めて情報流出事件を陳謝しました。事件の影響で、昨年4月時点から比較して会員数は25%以上も減り赤字に転落。昨年12月には300人の希望退職を募るに至りました。

ベネッセは補償金計200億円を用意し被害に遭った顧客に1人当たり500円相当の金券を配布しましたが、事態はそれで終わっていません。被害者の会や別の保護者と子供が慰謝料等の訴訟を起こし、さらには個人株主による株主代表訴訟も進んでいます。賠償額はとてつもない拡大の様子をみせています。

ベネッセの情報流出はグループ会社の派遣社員がパソコンとスマホをUSBケーブルで接続し、顧客情報をコピーして約200万円で名簿業者に売却したものだそうです。ベネッセの賠償額に比べたら微々たるもの。そしてネット時代の今は、事件が報道され明るみになれば加害者の実名から住所はもちろん、実家や出身校、家族構成、配偶者の勤め先、はたまた子供の学校まで暴かれることもあります。

この派遣社員やその家族を含めて、情報流出事件で幸せになる人は誰一人いません。

「**人生楽ありゃ苦もあるさ**」とは、冒頭の**水戸黄門**のテーマ「**あゝ人生に涙あり**」の歌の一節。

携帯性という”楽”(らく)の向こうに、とてつもない”**苦**”い人生が待っているかもしれません。

苦いのは、**ミョウガ**だけで十分です。

そういえば、**ミョウガ**を食べたら物忘れがひどくなるっていいですが、

できれば夏休みくらい、仕事を忘れてリフレッシュしたいものですね。(๑_๑)

大好きだった祖父が亡くなって約20年。子供の頃は一緒に食べられなかったけど今ならじいちゃんと一緒に**ミョウガ**を食べられたのになあって、思い出しています。



アヴニール労務事務所 所長柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



ミョウガ
食べたら
思い出す・・・